

# 3週間後に証明されるでしょう。「小柄かつ華奢で鋭い差し脚を持つ追い込み選手は弥彦で好走する理論」



今もS級で走っている選手の中で、弥彦が得意たたのは山口富生。記念V1回、準V2回、ふるさとダービー決勝3着など、とにかく突っ込んできた。164cm、66kgと小柄で華奢。シャープな差し脚が持ち味で、縫うようなハンドルさばきができる追い込み選手。引退した選手の顔も浮かぶけど、昔話かよって笑われるから。

あっせんされている108人を見渡した。背格好、そして競走スタイルが山口みたいな選手を2人ピックアップしました。

▼167cm72kgの椎木尾拓哉  
▼156cm53kgの坂口晃輔

園田匠は寛仁親王牌を獲つてし、志村太賀は地元選手で、また紹介するので、今回は除かせてもらいます。

まずは椎木尾。ここ3回は記念のあっせん。2016年こそ準決で1着失格だが、2017年は準V。2018年は決勝の7着。11走して、1勝、2着4回。やっぱ

りいいじゃないですか。坂口は少し古いけど、2010年、2011年のFIにあっせんされ、決勝6着と優勝。あれ、「小柄かつ華奢で、鋭い差し脚を持つ追い込み選手は弥彦で好走する理論」長いな。いけるんじゃないか。

椎木尾や坂口を連に絡めて、大穴を狙つてみませんか？9車立てだから、ワイド車券も面白い。

競輪のスピードはどんどん上がっているけど、全部が全部そういう訳ではない。10月末はバンクが重くなるし、1日12レースあつて、脇本雄太が走るレースはひとつしかないんです。かつての山口みたいな選手が突っ込んできて、穴を開ける競走は何個がありますよ。なんといっても直線が63・1mあるんだから、弥彦は。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント  
好走するはずの選手 第1話  
【新潟スポーツ 信氏 忠】

